

文房第一の具にして四友(硯・筆・墨・紙)の一なり。」と  
すが、雄勝硯の歴史も大変古く、口伝によりますと約  
江戸時代の頃といわれています。現存する古文書として  
抱えの硯師としての奥田家の家系図があります。その  
(1615～1624)に藩祖伊達政宗公が遠島(現・牡鹿半  
島)に、硯二面を献上したところ、いたく賞賛、褒美を賜  
ふ。また二代忠宗公もやはり鹿狩りの折、その巧みな  
筆を伊達藩にお抱えとされ、その硯材を産する山を「お  
抱えの採石を許さなかったといわれております。さらに  
藩主の命で「封内風土記(ほうないふどき)」によれば、当時す  
でに硯が産出され銘硯として名が広まっていたことが明  
かになっています。雄勝硯は応永の昔より名硯として賞美され、以  
て伝統を誇り、宮々として命脈を保ち続け、依然昔な  
の製法により、硯工人の腕ひとつ、呼吸ひとつで、丹念  
に作られています。

この伝統と技が生きる雄勝硯は、宮城県のみならず、我  
々の工芸品の一つとして昭和60年5月に通商産業大臣  
の工芸品の指定を受けました。

# 雄勝硯

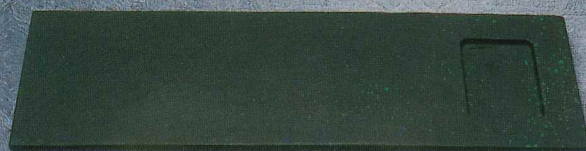
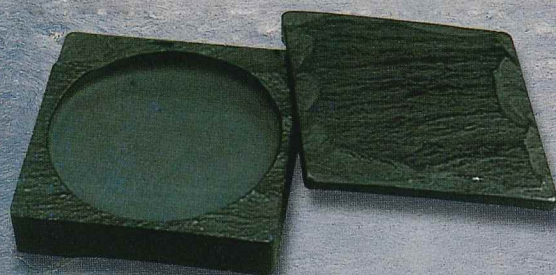


経済産業大臣指定伝統的工芸品  
地域団体商標登録 第572712号

この伝統マークを使った伝統証紙が貼られている  
雄勝硯は、産地組合が実施する検査に合格した経  
済産業大臣指定伝統的工芸品です。



# 雄勝硯の紹介 と 玄昌石皿



## 玄昌石皿 (げんしょういしざら)

雄勝石を割ったときに表れる石の紋様を活かした漆黒の器は、味わい深い高級食器として人気を集めている。

## 雄勝硯“復活”へのあゆみ



回収された硯の“再生”に取り組む

雄勝硯生産販売協同組合では、東日本大震災から2カ月後の5月初旬、全国のボランティアグループ等の協力を得て、雄勝硯伝統産業会館の周辺や、各関係者の店舗・倉庫の跡地周辺などから、約3000面のぼろ硯や、人気のある石皿、食器類等の工芸品の素材となる原石1万枚以上を回収した。

それらは全て手洗いし、泥を洗い落とし、選別・修理・仕上げをして出荷可能なものとし、全国からの問い合わせ等に対応した。「600年の歴史をここで絶やすわけにはいかない」という熱い思いだけが雄勝硯復活の原動力となった。

平成24年4月からは無尽蔵といわれる原石の採石も始まり、おがつ店こ屋街の仮設店舗で営業を再開している。



人気の石皿や食器の素材の原石



## 「東北復興への願いが託された、東京駅」



平成二十四年十月に復原された、東京駅丸の内駅舎の屋根に、雄勝産スレートが使われている。

スレートは、硯と同じ粘板岩できていて、採石した石を縦三十センチ横十八センチのプロックに切断し、厚さ5〜7ミリに割ったものが屋根材（天然スレート）となる。

大正三年に創建された東京駅には、雄勝産スレートが使われていたことから、復原される際も、雄勝産スレートを使ってもらうことは、地元としての願いであり、準備を進めていた矢先に未曾有の出来事が起った。

東日本大震災の大津波は、町のいたるところをのみ込み、スレート工場も流されたが、悲願達成にむけて、くじけることなく、多くの方の協力を得ながらガレキの中から拾い上げられた。そして蘇った雄勝産スレートは東京駅の屋根で誇らしげに力強くその存在を示している。



### アクセス

■ 三陸道・河北ICより車で30分

### お問い合わせ先

■ 雄勝硯生産販売協同組合  
〒986-1336 宮城県石巻市雄勝町上雄勝2丁目25  
TEL・FAX 0225(57)2632

雄勝硯や玄昌石皿の原石となっています雄勝石は、地質学的には北上山系登米層古世代上部二疊期（2・3億年前）に属する黒色硬質粘板岩で、光沢・粒子の均質さが優れ、その特製は純黒色で圧縮・曲げに強く給水率が低く、科学的作用や永い年月にも変質しない性質を持っています。

## 採石

により、重機  
い原石を採石  
。



## 切断

れた良質の原  
作する商品の  
・厚さ・形を  
切断します。



## 砂すり

た原石を円盤  
転すり盤機  
のせ、そこに川  
を流し込み、  
凹凸を削り滑  
します。



数億年の時を内包し存在する、純然たる漆黒。手技の芸術。



## 彫り

縁立て、荒彫り、仕  
上げ彫りの三段階に  
分けて、のみを肩に  
あて、体全体で硯を  
彫り上げて行きます。



## 磨き

彫り上がった硯を中  
磨き、外磨き、仕上げ  
磨きの三段階に分け  
て砥石・耐水ペーパー  
を使い、表面を丁寧  
に磨いて行きます。



## 仕上げ

仕上げには、漆を使  
ったつや出し仕上げ  
とやき仕上げ、墨を  
使った墨引き仕上げ  
の三つの仕上げ方法  
があります。

